



「食の大切さ」を伝えよう

報告者 千葉県船橋市立葛飾小学校 岩城 節臣先生

1. 研究のねらい

社会科の教材の中にある「これからの食料生産とわたしたち」「様々な食料生産」という単元で、毎日の食料調べから産業として食料生産の様子を学習した。家庭科では「作っておいしく食べよう」という単元で、毎日食べている食品調べから食べ物に含まれている栄養素や、栄養素の働き、栄養素を考えた調理実習を学習した。しかし、自分たちの「いのちを支える食」について、どれだけ自分の生活から「食事、食材、食」を見つめ直し、自分の問題として主体的に追究しているだろうか。給食の残菜を見ると、野菜を調理した物が多く見られる。肉や魚は比較的良好よく食べるが、野菜の残菜量は、他の食材より多いのが現状である。

本学級では農業体験や農家の方々との交流を進めていくうちに、「食べ物を大切にしなければいけない」という気持ちが芽生えてきた。まず、自分たちの実態を知るために葛飾小学校の給食の残菜を調べ、児童へのインタビューを行った。そこでは1日に大量の残菜があること、残す物は野菜が一番多いこと、嫌いな物はあまり食べないことなどがわかった。次に、食べ物の大切さを伝えるために食べたくても食べられない世界の子どもたちの様子、私たちの体にもたらす栄養の役割を調べることにした。しかし、平和で豊かな日本にいる自分たちと貧困に苦しむ世界の国々の様子を知ることは難しく、大きな隔たりがある。今回、国際的に活躍している日本ユニセフ協会の方との交流を行うことでより食べ物の大切さ、栄養の効能について知ることができると考えた。調べたり聞いたりする活動を通して児童の理解を深めていけば、身近なことと世界とのつながりに気づき、食の大切さを現代的な課題としてとらえ、共生していくことの大切さに気づくと考えた。

2. 学習計画（全44時間）

	学 習 活 動
ふれる （7時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業について深く知ろう（4） ○ 野菜作りについてゲストティーチャーの話を聞こう（3） <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元農家の方々の話 ・ お礼の手紙を書こう ・ ゲストティーチャーからのお返事を読みあおう
つかむ （9時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食べ物についてのアンケート調査（1） ○ 調べたいことを整理しよう（2） ○ 自分の課題を決定しよう（2） <p>夏休みの課題…5つの課題を調べて、ポートフォリオに書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の課題を発表しよう（3） ○ 学級の課題を決めよう（1）

<p>深める・まとめる (27時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の残菜を調べる (5) ○調べ学習からわかったことをグループごとにまとめる (3) ○栄養士の先生に話を聞く (1) ○野菜の栄養、栄養不良について考える (1) ○日本ユニセフ協会の三上さんの話を聞く (1) ・総合の学習で学級が学習したことを伝える ・栄養不良について話を聞く。 ・グループごとに次回までの課題を決める ○野菜の栄養や世界の子どもたちの現状について調べる (5) ○日本ユニセフ協会の三上さんと食べ物の栄養、世界の子どもたちの現状について確かめる (1) ○「食の大切さ」を伝える方法を決める (1) ・今までの学習をもとに伝える方法を決める (給食を作る人たちの苦労や工夫、野菜を作る人たちの苦労や工夫、野菜の栄養、世界の食料事情) ○グループで調べる (4) ○発表の準備をする (4) ・対象の学年に合わせた発表にする ○発表する (1) ○今回の単元で学んだこと学級で話し合う (1) ・学習のふり返しをする
----------------------------	--

3. 実践

(1) 農業体験

野菜の種まきから収穫まで行い、農家の方々の苦労や工夫を学習した。児童は今まで何気なく食べていた野菜に感謝の気持ちを持つことができた。また、地域のブランド野菜を知ることによって地域に誇りと愛着をもつことができた。



(2) 残菜調べ、給食室にインタビュー

本校の給食の残菜を1週間調べた。とても多く残菜があることがわかった。このことをもとに、給食を作っている方々にインタビューをした。私たちのために味付け、切り方、栄養面などたくさんの工夫があることがわかった。給食の方々の苦労や工夫を知ることによって、より食べ物への感謝の気持ちをもつことができた。



(3) 1回目のインターネット回線によるT・T授業

初めてのインターネットテレビ授業、児童はとても関心を持ち、意欲的に日本ユニセフ協会の方の話を聞いたり、質問をしたりしていた。1回目の授業は、「ユニセフについて」、「世界の子どもたちの様子」を話したり、聞いたりした。最後に日本ユニセフ協会の方から、次回（1週間後）のインターネット授業までの課題として、各グループの興味や疑問をもとに宿題を出してもらった。

- 1グループ：葛飾小学校の残菜調べの結果、
残菜をどうすればいいか
- 2グループ：温暖化による食べ物への影響
- 3グループ：子どもに必要な栄養
- 4グループ：世代別による体に対する栄養のはたらきについて
- 5グループ：世界の栄養不良の子



(4) 2回目のインターネット回線によるT・T授業

1回目のインターネット授業で出た課題をもとに発表会をした。また、調べ学習の中で出た疑問、わからなかったことを質問して答えてもらった。1回目と比べ、児童の知識も増えたのでより積極的な交流が行われていた。新たに知った世界の現状や栄養について児童は驚いていた。



4. 成果と課題

1回目の授業で問題を投げかけ、2回目の授業に向けて自分たちで調べ、考え、まとめる学習は子どもたちにとって非常に有意義な学習の場となった。また、2回目では前回よりも知識が増えたため、より身近な問題として話を聞くことができ、驚きの声や表情があがった。インターネット回線によるT・T授業を受けた子どもたちの感想から、「調べた時以上にたくさんの知識を身につけることができた」「栄養不良の子どものことを考えながら生きていかなきゃいけない」「この学習で学んだことを生活にいかしていきたい」という意見がでた。日本ユニセフ協会の方から世界の食事情について話をきく経験により、学習が学びで終わるのではなく実生活の行動へと意識を変えていくことができたのではないだろうか。また、「世界の子どもたちの現状」や「自分たちの豊かさ」に気づくことができたため、世界的な視野や自分たちのできることを考えていこうという気持ちが芽生えた。実際に授業後から募金をしたり、ユニセフについてさらに調べたり、ボランティア活動をしたりする積極的な姿がみられるようになった。また、インターネット回線によるT・T授業は子どもにとって初めての体験で、とても意欲的に学習を進めることができた。今後も、子どもたちが学んだ食の問題や世界の現状や課題についてこの単元で終わってしまうのではなく、継続的に学習していけるように取り組んでいきたい。